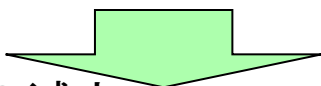


掛川市(北陸圏・中部圏ブロック)

【計画期間 21年3月～27年2月】※ 期間延長適用後

- ・江戸期 : 城下町、宿場町として発展。
- ・戦後～ : JR新幹線、在来線等の駅があり、交通の拠点。報徳思想※が盛ん。
※道徳と経済とを併せ説いた二宮尊徳の教え。

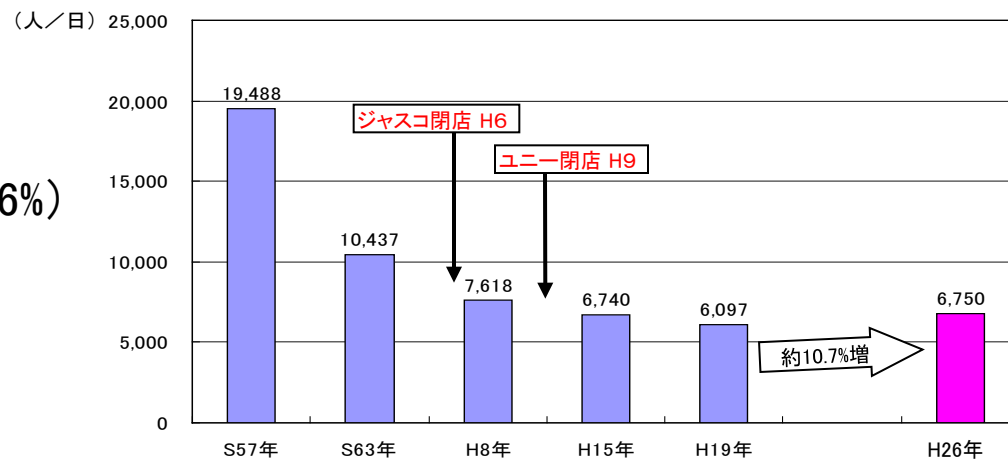
- 掛川駅は新幹線や在来線が結節し、ターミナル駅として機能。しかし、モータリゼーションの進展等により鉄道への依存が減少。
- 駅前の2つの大型店の撤退があり、商業機能、集客力の低下が顕著。
- 空き店舗の増加、通行量の減少等によるにぎわいの低下、地域コミュニティの弱体化が進展。



- 歩行者通行量の減少
S63: 10,437人 / 日 → H19: 6,097人 / 日(▲41.6%)
- 居住人口の減少
S63: 2,280人 → H20: 1,579人(▲30.7%)
- 店舗数の減少
S63: 516店 → H19: 357店(▲30.8%)

目標	指標	現況値	目標値(H26)
様々な目的で人が集うにぎわいのあるまち	主要地点の歩行者通行量	6,097人 / 日 (H19)	6,750人 / 日 (10.7%増)
快適で便利に多くの人々が住むまち	中心市街地の居住人口	1,579人 (H20年)	1,700人 (7.7%増)
活発な商業・業務・サービス活動のあるまち	中心市街地の営業店舗数	357店 (H19年)	380店 (6.4%増)

【歩行者通行量[平日・7地点]の推移と数値目標】

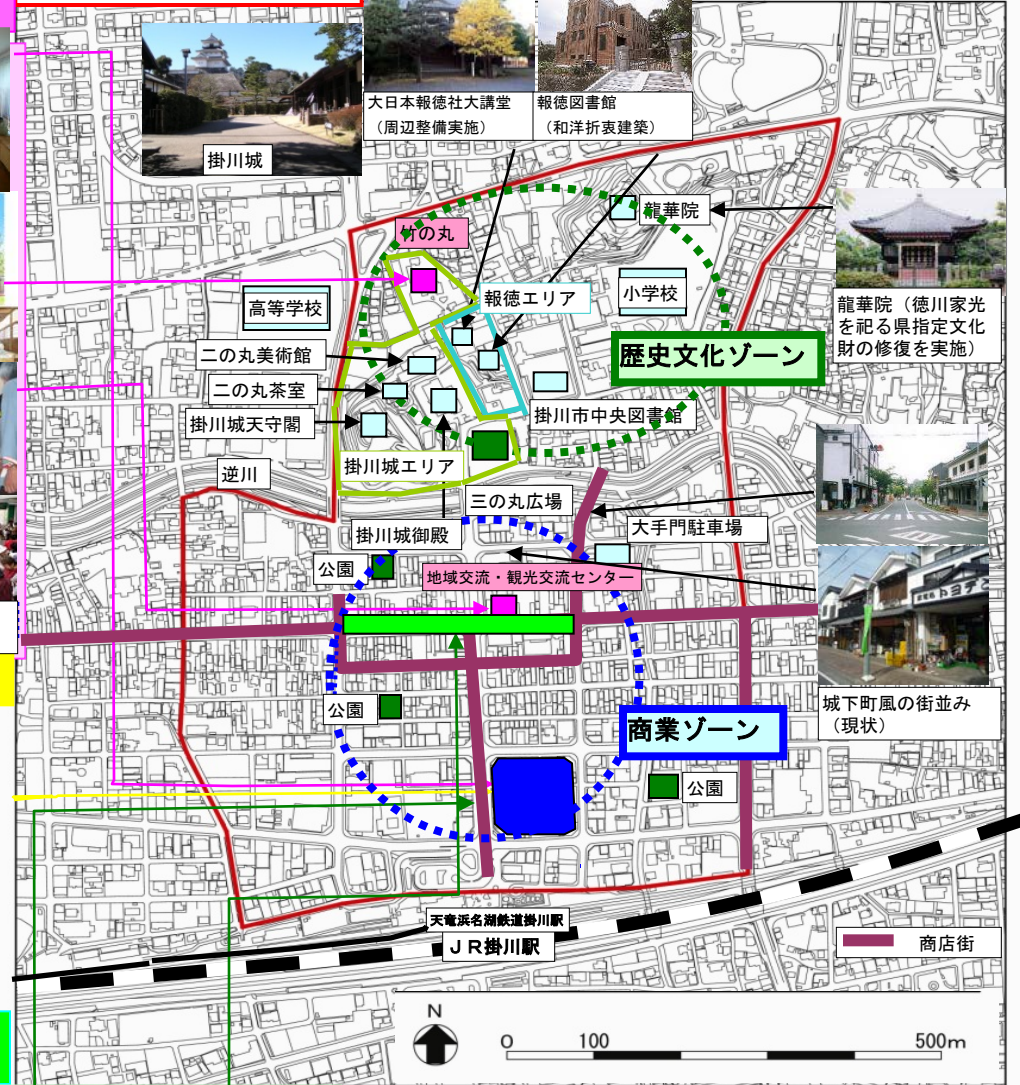


- 市民活動施設の整備充実を図ることなどにより様々な目的で人が集うにぎわいのあるまちを目指す。
⇒主要事業: ①再開発地区施設整備(公共公益施設)、②竹の丸修復、③地域交流・観光センター整備、④市民活動支援 等
- 住宅を整備、誘導することにより快適で便利に多くの人々が住むまちを目指す。
⇒主要事業: ①再開発地区施設整備(住宅)
- 生活支援商業施設を充実すること等により活発な商業・業務・サービス活動のあるまちを目指す。
⇒主要事業: ①再開発地区での施設整備(商業)、⑤中町連雀快適空間整備、⑥空き地利用促進 等

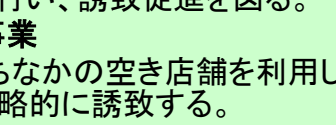
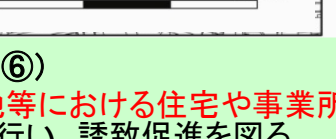
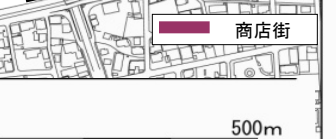
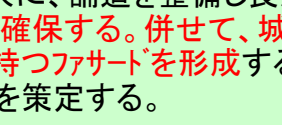
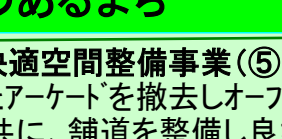
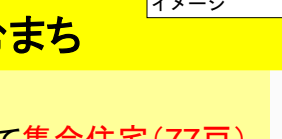
掛川市中心市街地活性化基本計画の事業概要

様々な目的で人々が集うにぎわいのあるまち

中心市街地 区域：50.5ha



市民活動拠点 (現状)



○再開発地区での施設整備 (公共公益施設) (①)
市街地再開発事業により、公共公益施設として、**生涯学習・市民活動のための拠点、にぎわい広場、駐車場**を整備する。

○竹の丸修復運営事業 (②)
明治期に豪商松本氏により建設された近代和風建築物である「竹の丸」を活用し、体験講座開催等**市民の活動拠点として運営**する。

○地域交流・観光交流センターの整備 (③)
寄席や演劇等開催可能なイベントホール等と共に「仁藤(にとう)の大獅子」等**地域の祭の情報発信拠点を整備**し地域との交流と来街促進を図る。

○市民活動支援事業 (④)
「おかみさん市」の開催等**市民活動を支援**しまちなかへの誘導と滞留時間の増加を図る。

快適で便利に多くの人々が住むまち

○再開発地区での施設整備 (住宅) (①)
市街地再開発事業により、公共公益・商業施設と併せて**集合住宅(77戸)**を整備する。



活発な商業・業務・サービス活動のあるまち

○再開発地区での施設整備 (商業) (①)
市街地再開発事業により整備される商業床を、権利者が設立する法人が取得し、**中心市街地に不足している生鮮食品スーパー等集客力の高い業種を集積**する。

○中町連雀快適空間整備事業 (⑤)
老朽化したアーケードを撤去しオープンモールとすると共に、舗道を整備し良好な**買物環境を確保**する。併せて、**城下町のイメージを持つファサードを形成**するよう地区計画を策定する。



○空き地利用促進事業 (⑥)
中心市街地内の**空き地等における住宅や事業所等の建設に対し補助**を行い、誘致促進を図る。

○テナントミックス推進事業
県の基金を活用し、まちなかの空き店舗を利用して、**有力なテナントを戦略的に誘致**する。